愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢 一ヶ月金六錢 三ヶ月分拾八錢 半年分參拾六錢 壹ヶ年分七拾貳錢 全國無遞送料 郵券代用(壹錢又は五厘切手)一割增
廣告料五號活字一行四拾錢
本誌全部禁轉載
發行所 東京麹町區(牛ヶ淵公園)愛國婦人會内 愛國婦人發行所
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄

社説

出征軍人を想ふ

明治三十八年の新年は異常なる新年なり、我が數十万の同胞が、亞細亞大陸の一部なる滿洲に乘り出して、朝日に匂ふ日の丸の旗翻へる許に迎へたる新年なり、待ちに待ち寢覺好からざりし旅順は二日に陷落して、二百日の溜飮を一時に下げたる新年なり、三日にはまた皇孫殿下御降誕の御慶事ありて臣民一同御代萬々歲をことほぎ奉つれる難有き新年なり、新年は年に一度は必ずあるものなり、然れども本年の如く勇壯にして偉大なる新年は、實に未曾有のことなり、定めて知る出征軍人諸氏は我等と同じ心地を以て此異常新年を迎へられたることを。

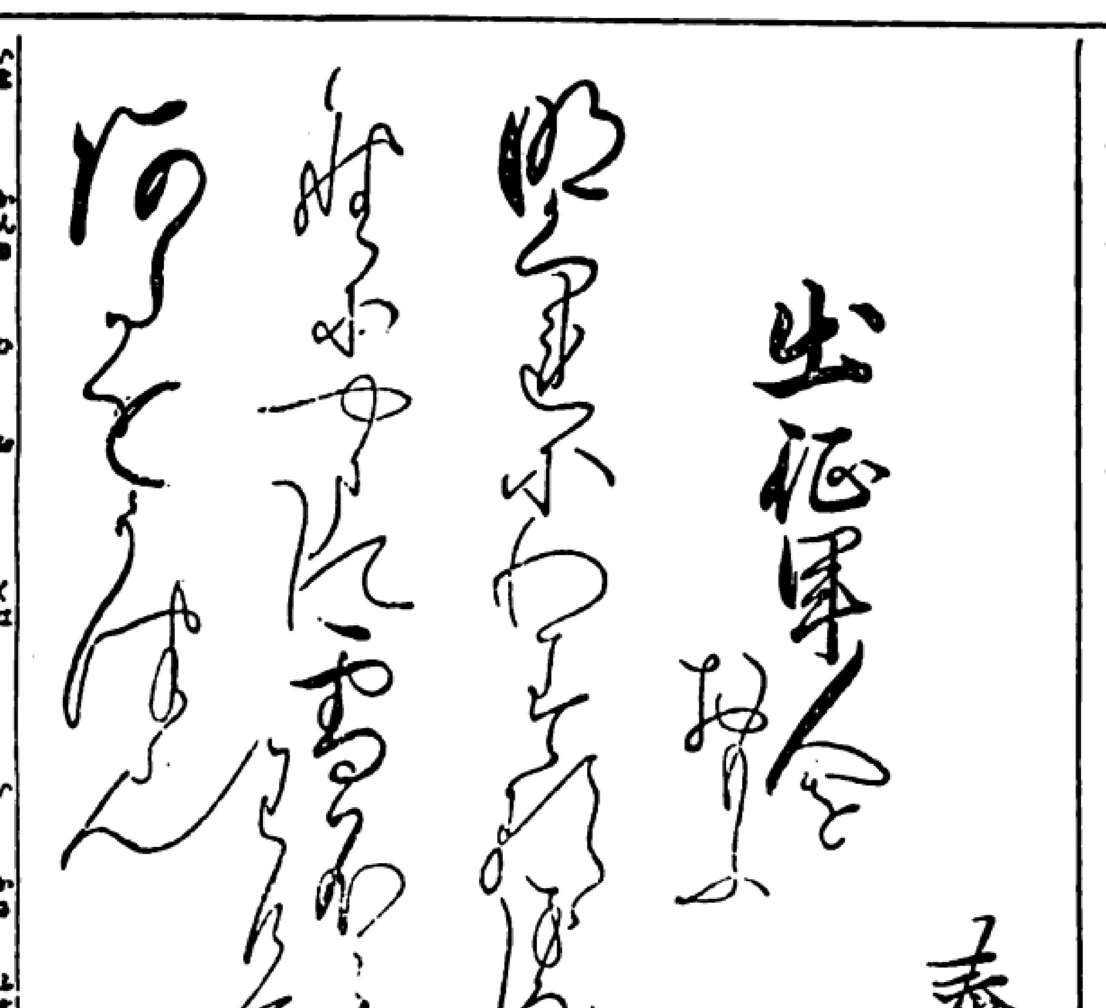
翻つて思へは、我等内地にある者は、一種の憂心忡々たるものなくんばあらず。滿洲の野に日の丸の旗押立て、新玉の春を迎ふといへは、如何にも愉快に結構に聞ゆれども、其實春霞棚引きて、紙鳶の高く揚れる所、上々吉の御機嫌にて、醉歩蹣跚御慶を申し上ぐるといふにあらずして、滿目白雪皚々寒風身を切るの荒野に於て、氷結せる穴中に着替へもなき武裝の儘の新年なり、聞く軍人諸氏の起居せらるゝ塹壕には、吹雪容赦なく來りて、背中痛き黍殼の臥床を襲ひ、耳鼻手足は凍傷に少しの油斷を許さず、步哨の如き左右の脚を絕へず上下せざれは、脚は大地に凍着樹立するに至るといふ。吹き荒む寒氣に面を曝らし、氷結せる甲板を往來し、氷柱さがれる綱梯子を攀つる海軍軍人諸氏が海上勤務の困難亦此に讓らさるものあらん。內地のゆるき冬を密閉せる室內に火鉢を擁し、厚衾取り重ねても、尚寒きを感ずるに、况んや彼地酷烈の嚴寒に、不自由なる穴居的生活若しくは海上の勤務を以てす、其艱難勞苦は實に想像以外のものあるべし、想ふに長期の斯る生活は絕へさる苦痛にして、寧ろ死の一時にして苦痛なきを撰む程のものなるべきか。思ふて此に到れは、我等は、同情の至りに堪へずして、平常の坐臥を爲すに忍ひさるものなり。國民が恤兵に慰問に遺族廢兵の救護に、其能ふ限りを盡して尚至らさるを恐るゝ所以のものは、即ち此至情の發現に外ならざるなり。此至情以て出征軍人諸氏が勞苦の萬一を慰むるに足らん。諸氏が心中に燃ゆる忠誠の熱火は、滿洲の氷雪も諸氏の健康を侵す能はざるべしと雖も、幸に自愛ありて、白梅の獨り雪中に笑ふが如く、馥郁たる芳香を放ちつゝ、やがて時到り機熟して、破天荒の大活動に露軍を粉韲し、うるはしき果實を結ふの時を待たれんことを、これ我等が至願なり。

◎新年に際して我國婦人に望む

評議員 下田歌子

我等の生涯、否國家の將來に於て、永久の紀念たる、明治卅七年は已に逝きて、更に新らしき年は來たれり。而も今一月一日、旅順開城の吉報を傳へ、我等國民が此光榮あり活氣ある年を迎ふることを得たるは、偏に我軍隊が偉大なる功績の賜物といふべし。顧れは、去年二月出師以來幾多の同胞は、楯を敷き矛を枕とし、寒暑と戰ひ强敵を擊ち、有ゆる艱苦を嘗めて、以て今日に至り、遠く異鄉の戰地に在つて、垢面蓬髮、戎衣の儘、新舊の年を送迎す。其感慨勞苦、實に察するに餘りありかし。故に、國民は、迎年の準備も、例年の禮をも略し、冗費を節し、形式を省き、靜粛に此歲旦を過さんとせしもの期せすして皆しかくあり

今や、寒氣は日を追ひて加はり、衣を襲ね襖を厚うして、尚ほ且つ其堪へ難きを覺ゆ。然れども、その酷寒の凜烈なること、更に幾倍せる、滿洲の荒野はいかに。遼東の海原はいかに。四圍堅氷に閉され、波上を涉り、原野に荒ぶ風には肌も裂け吐く息も凍りぬべし。此嚴寒の中に在つて、雨の日雪の夜の嫌ひなく、或は步哨に立ち斥候に出で、或は舷頭に立ちて精銳の新客を待ち、水雷を驅りて監査の任に當るなどは、殆ど常時の任務とし、戰鬪の開始せらるゝや、朝には累々たる戰友の死屍を踏んで砲烟彈雨の中に馳驅し、夕には彈痕斑々たる幕營の內に、冷かなる穴居に、僅かに其躰を慰はしむるも、いかて溫かなる家鄉の夢を結び得へき。是れ等の人の勞苦忠勇に因つて、我等は一家團欒して、新年を迎へ得たるを感謝すると同時に、無益の費を省き、夙夜に力めて、我等の力の及はん限り、一致提携し、去年より多くの重任を負ひて立たざるべからさる、明治卅八年の國家に、貢献するの用意をなし、軍隊の精銳勇敢に驚きて、眼を絕東に轉じ、我國民の思想態度を凝視しつゝある、全世界の人をして、我婦人界の功績の、光彩ある軍隊の名譽に酬ひて、表彰せらるゝの實を擧げんことを、切に希望して已まざるなり。



き。願くは、我等婦人は、この年の始めに當り、念々軍隊の勞苦を忘れず、先づ第一に、同情同感の念を培ひ、その根本を堅うし、優しき婦人の胸中に溢るゝ赤誠を集め、他日、大に勇躍の覺悟を爲さゝるべからず。戰爭以來、我婦人界は、曾て無き活動を現はし、畏くも、皇后陛下の御懿旨を奉戴し、皇族妃殿下の貴きを以てすら、玉手に繃帶を造られ、加之屢々出て、歸來の傷病兵をいたはり給ひ、婦人の諸團體は、何れも皆、恤兵に救護に、慰問に力を致すこと多かりしは、世の人の知る所なるが、戰局發展に伴ふ我等の活動も、本年は昨年よりも加倍の力を以て、いよいよ廣く大ならざるべからざるなり。

出征軍人を思ふ

會長 公爵夫人 岩倉久子
かちいくさ聞くたひことにますらをの
　つゝかなかれといのるはかりそ

理事 公爵夫人 德川泰子
明くれにわするゝまなし野に山に
　雪ふみわけてあしたをうつらん

理事 前公爵夫人 近衛貞子
戰ひの止みてしつけなき冬の夜の
　さむさよいかにみにはしむらん

理事 前公爵夫人 毛利安子
埋火によりても寒き冬の夜に
　皇軍人を思ひこそやれ

監事 公爵夫人 九條惠子
かちぬとてたゝよろこへとたゝかひし
　人のくるしみいかにありしそ

監事 男爵夫人 三井苞子
いさみたつますらたけをそあはれなる
　ふたゝひおやにあふましきかな

評議員 侯爵夫人 黑田清子
寒さをもいとはてつくす式島の
　やまとこゝろのいさましき哉

評議員 侯爵夫人 佐竹祚子
國の爲め身をさゝけてしますらをも
　こほる霜夜を思ひこそやれ

評議員 伯爵夫人 阿部篤子
朝な夕ないくさの庭にたつ人を
　つゝかなかれといのるころ哉

評議員 男爵夫人 千家俊子
大空のよそにはたれかなかむべき
　戰の庭の冬の夜の月

評議員 南鄕柳子
霜さゆるあら野の床やいかならむ
　みやこのそらも木からしの風

評議員 中山幸子
ふる雪をみれはおもひのまさりけり
　みいくさ人のいかにおはさむ

評議員 有島幸子
此ころの寒さやいかにいくさ人
　露營のゆめも結かねらむ

評議員 佐方鎮子
劒たち身におく霜の寒きよを
　ふすまもあらてもりあかすらん

評議員 小田松子
雪の上にあた守る人やいかならん
　火桶のそはも寒き夜なよな

高倉壽子
軍人雪ふみちらしすゝみ行く
　さむさ思へはねられさりけり

電話番町五百二十番　◎本號には附錄として閑院宮妃殿下各名譽會員妃殿下を始め東郷上村兩將軍と共に撮影されたる新年互禮會の寫眞を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎軍人の孤兒を救ふ可し

評議員　棚橋絢子

凡そ世の中に生とし生るもの何れか生を惜み死を恐れざるべき床下の掃除より塵ためどぶさらへに至る迄種々の方面に注意して流行病をふせがんとし食物に滋養あるものを撰び病氣に醫師の藥をのみ冬は湯治夏は避暑と世の人のかにかくと心くばりにたはみなきは皆其の息災にして延命を祈るか爲のみ古へに不老不死の藥を求めし人さへありしは所謂生を惜み死を恐るゝ心のいたくかうちたるなりけりかくの如く生命の大切なるにもかゝはらず内地の事は暫くいはず日清戰役といひ北清事件といひ又此度の時局といひ何れも出征軍人が死を見る事歸するか如き有樣にて一度戰場に臨めは妻は病床に臥し見は餓になけるを忘れ一意專心に御國の敵と相戰ひ倒れて後止むの決心を示さるゝは是偏に君國の尊きを知りて生命のいかんを思はざるによる者にして其志のおろかならざるはいふ迄もなく其行爲か如何に我等同胞に多大の幸福を與へたるかは皆人の知り盡せる所なりかし今や旅順の陷落して我等か目出度新年を迎へしも皆出征軍人の賜なれば其恩惠に浴したる我等同胞か此敬愛すべき軍人遺家族に對してあらむ限りの禮を盡し中にも生計に困難なる者あらは之を保護し給養すべきは自からなる義務なりとこそいふべけれ我愛國婦人會を始とし慰問會軍人家族救護會同家族授産會戰事婦人會其他種々の團體か何れも軍人家族を救護する目的に成り會員諸氏の熱心なる勤活にて盛大に趣きたるは實に賀すべきの至りにて聊以て軍人諸氏の勞を慰するに足らんか猶此機に乘じて諸氏か困難なる家族の子弟教養を計り幼兒老病者を福田會養育院等に收容するの準備を爲すと共に幼稚園小學校に入るべき者は夫々其手くばりをなして之に適當なる教養を施し以て一には日本第二の國民を作り又一には出征軍人の生死魂魄を慰むる途を立て給はん事予等の切に熱望する所なり古歌に人の親の心はやみにあらねと子を思ふ道に迷ひぬるかなとある如く親の子を思ふほと切なる者は世になきを常とし戰地より家族の文通にも子ある人は何れも其行先に注意し陣歿の末期にも必ず子を托すべき途を慮からざるなき有樣にて設令言語には出さぬまでも心中の苦は察するに餘りある次第なれは此方法にして充分行屆きたらんには死者も地下に瞑目すべく生者も安んじて死に就くべきのみならず家族の健康者は各々自治の精神を振起して其の得たる所を職とすべく國家永遠の稗益蓋し少なからずと信ぜらるあはれ悲慈心深き婦人方はともに共に此種の方面に盡力あらまほしけれと己か思ふまゝを一筆かくなん

◎十分談片

◉東郷大將　私は愛國婦人會で貴婦人令孃方が軍人の被服を裁縫せらるゝ處を見ましてこれてこそ日本の兵士が强いのであると思ひました歸って聯合艦隊一同に報告する積りであります

◉海軍大佐中尾雄氏　一寸歸京したから初瀨艦沈沒當時の狀况を御話しやう自分は海軍省へ一分五秒間に沈沒したと報告したが實際は一分間もかゝらなかつたと云ふ程實に迅速であつたこれは全く敵の水雷が火藥庫に當つたからである自分は當時號令塔の上で指揮をして居ッたがドット云ふ響と共に振向いて見ると艦は一面火焔に包まれて來た不取敢救助の號令を掛けたが混雜の音で聞えない見る内に艦體が全部つぶ〳〵と沈沒して自分も號令塔の柱を握ッた儘海の底に沈んだが途中で考へて柱を放して浮び上ッて泳いで居ると負傷した儘おぼつかなく泳いで居る者が多いから是等を早く救ひ上げさして自分は(三十分位)して龍田艦のボートに救ひ上げられた色々氣の毒な事柄があるが一番氣の毒の情に堪へなかッたは佐世保に上陸した當時乘込軍人の家族が其夫や其子の安否を尋ねる爲に押寄せて來たそこで生存者三百餘名の姓名を書き出して他は皆戰死した事を告げた處が集まッた群衆が中々去らない二度も三度も其掲示を繰返して讀んで若しや見落してはあるまいかと思ふて見つめて居た此有樣は自分も實に見るに忍ばなかッた其他家族が將來の生活上の方針について皆自分の處へ相談に來る下宿屋を始めたらどうてあらうとかすし屋を始めたらどうであらうとか云うて來る其答へには殆ど窮した程である愛國婦人會でも遺族の相談相手となッてやる一の組織を作る事が必要と思ふ

風俗繪はがき　延喜時代　錦の霜

◉侯爵夫人大山捨松氏　戰時に於ける日本婦人の活動は實に目覺しきものであります併し慈善事業の爲に働く者は只一點たりとも自己の名譽の爲にとの觀念があッてはなりません特に婦人事業が男子に總ての指揮を受けるやうでは眞の婦人の活動とは申されません元來日本の男子は婦人を餘程見くびつて居つて婦人だけては何事も爲す事の出來ないやうに思うて居りまして男子が總ての御膳立をして婦人は殆ど働く可き餘地の無いやうに仕向けらるゝ事が往々あります素より事を爲すには男子の後援なり相談なりが無くてはなりませんが大概の事柄は思ひ切ッて婦人に任された方が反ッて進歩します恰も子供を手取り足取りして育てると其子の發達を害すると同じやうに婦人の事業も餘り男子の干渉を受けないやうにせねば何時迄立ッても發達は致しません且つ又婦人の集會の席ては互に遠慮して意見を陳べる事が不十分であッて決議した後に苦情の起る事が往々あり勝でありますが西洋の婦人はさう云ふ處ははつきりと致します愛國婦人會は以上の點は頗る他の會と趣きを異にして何事も婦人で相談せられ且つ評議會の席でも遠慮なく互に意見を陳べらるゝ事になつて居りますから其結果今日の如き圓滿なる發達を見るに至ッた事と思ひます

◉參謀次長夫人長岡芳子氏　主人は家庭に關する事は餘程注意する方でありまして殊に子供の教育には尤も力を盡して居ります今日でこそ非常に多忙で參謀本部に詰切つて宅に歸る事は多くありませんが舊任地の廣島では餘程面白く致して居りました第一子供に秩序の觀念を養成する事に注意し四人の子供に一室ッゝを與へ其室の整理萬端人手を借らず整はせ一週間に一度ッゝ夫婦して其室を撿査し不整理な時は之を直さす樣に致しました又主人は日本の子供に限ッて鼻を流すのはつまり躾けが惡いからであるとの考へを持ッて居りまして鼻を流す事を嚴禁してありましたから子供が主人に遇ふ時は先づ以て鼻の下を撫て見ると云ふ風になりました其他毎日子供と食卓を共にする制を立てまして四人の子供の内一人ッゝ順番に毎夕主人と食卓を共にし膳部も同じやうに調へてやりますと子供等は大層喜んで居りまして其日の出來事又は面白く感じた事柄などを主人に話しをする事になッて居りました其他日曜日は必ず家族全體を引連れ山に登ッたり川に遊んだりする事になッて居りましたが東京へ參りましては主人が多忙てありますから子供等がちよッとも面白い事が無いと申して居ります

◉中井嘉太郎氏　私は此度京釜鐵道に乘ッて戻りましたが朝鮮の内地を旅行するのは日本の内地を旅行すると同じ心持ちである鐵道乘客の半數以上は日本人であッて停車場に於ける辨當賣りや茶を賣るのも皆日本人である貴婦人方が朝鮮へ往かれた處が不自由の事はないから少しは婦人も視察に出かけられるがよろしい朝鮮の婦人も大に男子を助けて働かうと云ふ思想は充分持ッて居るが何しろ職業が無い故に私は東本願寺の僧侶たちと共に計畫して女子職業學校を起し日本より敎師を傭入れて種々なる手內職を授ける事に盡力する積りてある尚本年三月頃には日本婦人の團體たる京城婦人會が發起して日韓婦人懇親會を開く筈である

◉林學士松波秀實氏　日本の家庭では主婦が三年も懸ッて漸く改良した事柄でも志慮淺き男子が一言の下に打破ッて仕舞ッて主婦は之に對抗するの氣力が無く折角光明に導かれかけた家庭も再び闇黑に陷る事がある之は畢竟日本の男子は平生放任して主婦の云ふ儘に任して居るやうであるがよい〳〵肝心なる處になると著しく干渉して主婦の計畫を崩して仕舞ふからである主婦たるものは須く最初に確く約束を結び置く事が最も必要である

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

わが身

堀内新泉

こゝは屋後の黒板塀、潜戸を開くれば勝手元、塀に沿ふて闇を縫ひ、忍び寄つたは兒を背に、まだ若さうな世話女房、餘りに服裝が落ちたので、晝間は生家にも來られぬ始末。今夜是非ないことあつて、こゝまで來るは來たものゝ、「このまあ服裝で、何んとして」

見放くる空は星だらけ、まあこの風の寒いよ！兒は顏に背を摺る。搖つて打き、「ねん〳〵よ」差俯向いて、凝然と立ち、「急くが、何うしやう？」あもひ亂れて近寄れば、ザハツと鳴る松と竹！「アゝ、去年は彼樣して御年始に」今年は酷い身の仕合！生身の果は何んとも知れぬ。

「ア、、仕方が無い」戸に手をかけたが、身が縮んだ。内に跫音、はて誰れやら？

「アレまあ物騷な、今夜もまだ此處が懸けてない」「南無三！懸金の音。最う堪らぬ、近寄つて、「老婆や！」聞えぬ。戸を輕く打いて又、「老婆や！老婆や！」パツと後が光く成り、「お實〳〵！」怪みながら見て過ぐる。「何方かお呼びなすつたかい」「わたし！」「何方？」開けて悔り、「おや、貴女は！」向ふの光が消して欲しい。花の色はうつりにけりないたづらに「我が身ツ！」「オッとこれだ「それは我が衣手よ」「やッ！」「はい、あつてよ」「名にしおはゞ逢ふ坂山のさねかづら」「人に知らで來るよしもがな。あつた〳〵！」「アレそれは人をも身をもよ」「ヤッ、仕舞つた！」「はい、あつてよ」「やあ、奥さん、大勝利、號外！松島しつかり〳〵、陷落するぞ」一間には燈火畫の如く、今や歌留多の眞最中。「オホ、、、」今笑ふのは嫂で、外面如菩薩、内心夜叉、聲を聞いても竦然とする。忍び行く裏庭傳ひ、風寒いや。「アゝ、昔は此處で羽根も突いたに」一間の天戸が裏面からスツと。手引は前の老女であらう。入つて閉めて、椽頭から敷居越に手を突いた。ホッと一ト息、聲打潜め「母さま、お芽出たう存じます」云ひも終らず手を顏に。おなじく低聲て、此處に來い！此處に來い！」暖かい親の慈悲！何時に成つたらこの御恩を。「ま、おぶつて來たかい、この寒いに！」老眼よりおろ〳〵。「まあ、案じた、案じた、片時も」「私ゆゑに、ア、、済みません！」「何んの！浮沈は人に有勝、苦を見る子程親は可愛！まあ、此處に來い！話がある、オヽ〳〵寢ねして居るね」母子同時に涙に成つた。塀一重向ふは隣家の奥座敷、酒宴半に主人が自慢の、「燒野の雉子、夜の鶴——」「チン！」「ア、、母さん、私はよく〳〵！」「何んの！今に！」戸にガタ〳〵と風が來た

（終）

◎軍國の婦人は大に働く可し

評議員　山脇房子

私共は如何なる果報者か此未曾有の大御代に生れ合せ、いよ〳〵世界の檜舞臺に大活動を始め文明國の仲間入りする樣になりましたのは、實に難有いことであります、されは如何にしてかくは難有い御代になつたかと申すことを、第一に考へねばなりますまい

此れは申すまでもなく　天皇陛下の御威德の然らしむる所と我忠勇なる軍人諸氏の唯國家あるを知て我あるを知らず、野に伏し山に寢ね、炎熱に曝され風雪に弄られ、寢食せざること二晝夜三晝夜に至るも、しかも倘屈せず一意君國の爲め笑つて死する御蔭でございます　私共は內地に居て快報の到るをのみたゞ待つて居りますけれども、此快報を得るに到る迄の實見談を聞き或は讀みますに敵が十數年間の歲月と巨萬の資金とを投じ、あらゆる最新の方法手段を天嶮に加へて難攻不落なりと、誇り居る金城鐵壁に向て熱血を注いて之を攻陷せんとする、其艱難辛苦の狀況は實に悽愴慘憺と申すへきか何と申しても形容の言葉が不充分てございます、承れは此忠勇なる兵士等の心懸に指揮者は皆涙を以て指揮して居らるゝとのことでございますが、實にさもあることゝ存します

此精鋭强武世界に冠たる忠勇義烈の軍人諸氏が奮て君國の爲め身を犧牲に供して居らるゝことを思ひますときは、いかで我々女子なりとて暖き食に飽き厚き衣を纒ふて安閑として居られましよう、就中我愛國婦人會はかねてより軍人諸氏に同情を表する爲めに設立されて居りますことでございますれば、此際層一層奮發して我軍人諸氏に滿腔の同情を寄せ、せめて後顧の患でもなきやう出來る限りの方法を以て、事業の振興を計らねばならぬことは國民特に、天性同情に厚き婦人の國家に對する義務をございます

外國人は我軍人諸氏の世界無比なる擧動に感服しては日本軍隊の前には難攻不落の堅壘なし斯る勇敢なる突擊と勇壯なる最後の狀は戰史ありて以來未だ見ざる處なりと評して居るとのことでございます

◎日本の婦人に告く

相談役　子爵　谷干城

◉最後の一人を殺すまで戰はねばならぬ　今日の戰爭は日本だけの戰爭でない世界の戰爭である日本の勝敗は世界の人心を支配するわけてあるから餘程きばらねばなりません中途で弱るやうてはならぬ日本人は男も女も老も幼も必死になッて最後まで戰ふ覺悟がなくてなりませ

◉一致の力は牢固なり　近い歷史は擧國一致の力の强大なる事を證明して居りますそれは歐羅巴のバルカン半島の內にモンテネグロと云ふ國がありますが僅二十万位の人口の國であるがそれが土耳古と戰爭を始めた處が人口は少くても國民皆兵となッて戰うた女も子供も皆武器を執ッて戰うたが八九歲の子供だと思うて油斷するとピストルて打たれるから勢ひ婦人子供まで殺さねばならぬ全國民を殘らず殺さねば其國を取る事が出來ない事になッた餘り婦人子供を殺すから列國が見るに忍びず干涉して遂に戰ひを止めさす事になッた其後私は其戰ひに從軍した土耳古の陸軍少佐に遇ふたが人間の決心程世の中に强い者はないと申した

◉日本婦人も刀を執るの覺悟を要す　バルチック艦隊も日本に來るまでには勇敢なる日本海軍の爲め擊沈される事であらうと思ふが万一にもこれが來て日本を暴すと云ふ場合には婦人でも刀を携へて出ねばならぬ又必ずやッつけると云ふの決心が大切であります此決心を以て今日は何れの方面にも大に働かねばなりません

◉敵軍にも勇敢な婦人あり　ステッセルの夫人は夫を助けて籠城中騎馬で陣營を見廻ッて將士の勞苦を慰撫したとの事であります又一婦人は夫と勞苦を共にせんが爲に男裝して旅順に到り遂に夫に廻合したと云ふ話しもある日本の婦人も唯男子の勝つに甘んじはては不覺を取る事が無とも限られぬから男子の苦心の有樣を我身に引較べて働かねばならぬさうすれば何事でも出來る

◉旅順とセバストポール　セバストポールは四ケ國の連合軍が攻めて十一ケ月で漸く打ち落しましたが旅順は八月から攻め始めて翌年の一月で攻め落しました其間六ケ月かゝり且其上日本一ケ國で攻め落しましたのは實に千古の類のない名譽な事でありますこれを見ても日本は有難い國で啻に武力のみならず神の助けがある事かと思はれるほどです然し神の助けも人の爲すべき分を十分に盡して後に始めてある次第だから內地にある婦人方も一方には大に働き一方には大に儉約して我國をして金に究する事のないやうにして我軍の凱旋を待たれん事を希望します

◎新案考物答案

一、わたしこの間かるた會に行きましたら、突然に、『炭團』の上の句をいつてごらんといはれて困まりました。みなさんごぞんじ？やつぱり小倉百人首のうちにあるのださうですよ。

答『鵲のわたせる橋におく霜の』といふ上の句なり。なぜかといへば「しろきを見れば夜ぞふけにける」といふ下の句は正しく炭團を意味しますから

二、口でいへば圓い樣な、吸て見れば角のあるものは何でせう。

答　角取（炭取）

三、私の弟、昨日學校から歸つて來て『姉さん、もすこしすると、螢の虫を食ふ鳥がきますれ』と申しますの。何のことでせう？

答　鶯

四、私、このほどある先生の所へ參りまして、女に一ばん大切なものは何でせうかつてきゝましたら、次の歌を示されました。が、一向わけがわかりません。みなさんどうか考へて頂戴。

『をみな子の道やいかにと人とはゞうけしこゝろとわれは答へん。』

答　愛

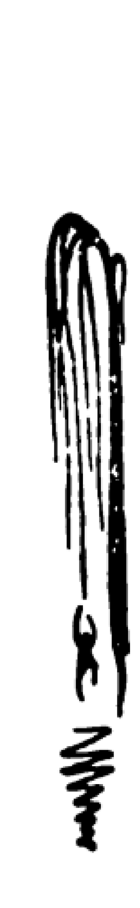
五、次のをサトッテごらん。しかし、たゞ一つだけ　サトラヌ所なくてはいけませんよ。

しさしさまのさはるさなさいもさとくさくさらさかな。

答　敷島の春をひもとく櫻哉

前號の考物に對する答案は全國より二百餘通の多きに、達せしは出題者の最も滿足する處に有之候然るに第一案と第二案の「炭取」が何れも解答出來ず只一人滿足に回答せられたるは東京牛込區の水尾とみ子氏のみにつき同氏に第一に御約束の賞與を贈り右の題をぬき先着順により左の四氏に近衞公爵母堂始め貴婦人方の自筆の短冊一枚づゝを進呈致し候

兵庫縣但馬國城崎郡豐島本町　木崎萬子
京都市寺町通小路下る東櫻町入　河島未菊
新潟市東湊町四丁目　佐藤とし子
靜岡縣庵原郡蒲原町　鹽坂入豐



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎寫生小說　妖怪（其二）

糸　左近

『尤も今より數年前に妾とかゞ自殺したなど申せど、無形の精神が妖怪などになるべき筈は斷然無いと確信しまして、態々移轉いたしたる次第なれど、今申し上げたやうな狀態で御座いますれば、甚だ恐れ入りまするが、御來宅下された上て、何とか御判斷を御願申し上げまする、何うぞ。』、聽き了つて大方斯うであらうとは考へたれど、何分實地撿分することにした。

家は小石川區の片隅、如何にも風流な搆へ、楓葉門を爲し、竹自ら垣、その中に露と明け露と暮るるや草の庵、都にも斯ういふ所があらうかと思はるゝ別天地、淋しい味を樂しむ詩人ならば佳境と叫ぶかも知れぬが、衛生一天張の我等には、樹は天日を蔽うて鬱蒼々、庭は苔滑らかにして濕氣滿々と評したくなる程で、實に妖怪でも出さうな屋敷である。兎に角內に入つて、妻君の容態を診れば、左程の衰弱といふ程でも無いが、確かに慢性の僂麻窒斯病であつて、非常な蒼白い頰に凄い笑を洩して我を睨むには思はず慄とした、けれど余は妖怪の生躰はこれであるなアと見屆けたのである。

『家相家は東南に倉庫あれば其の家病者を出すしいふぢやありませぬか、倉庫は無くとも、樹あれば同じことです、樹は元來炭酸瓦斯を吸つて酸素を吐き、地中の毒物までも掃除してくれる結搆なものではあるが、此の樣に四方とも鬱陶敷ては大切なる光線の照す餘地が無いから、庭內の乾く暇も無い、それですから日中外出してゐる人には、何の祟も無いが、終日家を守る妻君には、僂麻窒斯病腦衰弱症などが喜んで襲ひます、然るに、その初め女が自殺したなどの忌はしい話が殘つてゐるから、精神次第に沈み勝になり、遂に色々な幻影を見るのであります、しかも一度さういふ事があると、住人が少くなる、住人が少くなれば、益々濕氣の乾く筈は無い、彼の常に人の住まぬ別莊や赤貧者の住宅は濕氣が多いから、色々な病魔が侵すのであります、これより外に何等の判斷も出來ませぬ、約めて言へば光線が無くて濕氣が多いといふことに歸すのです。』主人は成程と手を拍つて喜び、早速大屋と談判して、西日を蔽ふだけの主な樹を殘した外は惜げも無く悉く切り捨てた、定めし妖怪も早々逃るてあらう。普天の下率土の濱、皆我が大君のものなれば、何くか鬼の住みかなるべき。（終）

◎貴婦人の自白

（本年より改めんとする事例）

●私は余程怯者でありました何故なれば爲すべき事と知りながら遂に爲さず爲すべからざる事と知りながら止めるだけの勇氣が欠けて居りました例へば朝早く起きねばならぬと知りながら枕許の時計を眺め今十分今五分と過ごして遂に時刻が後れ勝になります本年からは必ず早く起きて其慣習をつけたいと思ひます

風俗繪葉書　慶長時代　落花の雪

●私の家には多くの借金がありますこれを返却せんとするには平生の費用を節するか又は他に特別の收入を得るか二途の外にはない事を知りながらつひ他より借金をして前の借金を返すやうに致して居りましたから年の終りに計算しますと矢張り借金の高が殖えて居りました本年からは儉約して返す工夫を計る積りであります

●私は常に手元が痛苦であるのを知りながら人に對しては貧しいと云ふ事を顯す事が出來ないで常に鷹揚な風を裝ふ有樣で貧しい事の苦しいよりはそれを顯すまいと努める方が反つて苦しい思ひがあります今年よりは兎に角に收入より支出を一厘だに過さぬやう注意したいと思ひます

●私は夫から或事の批難を受けて自ら其非と覺りながら其席に於て自分の誤りを誤りとして自白するだけの勇氣が欠けて居りました本年からは恐しき事と知れば直ちに謝罪を云ふ決心であります

●私は夫の威厳に壓せられて十分に理由の立たぬ事と思ひながら反對を試みるの勇氣なく不平をさしはさみ不承不承に命を聽く事があります斯くては遂に說く可からさる誤解に陷る事往々ありますから本年からは意見のあるだけを直截に吐露する積りであります

●私は人を訪問するに當り用事を言ひ出す事が常に苦痛に感じまして冗談に貴重の時を殺し終りに至つて漸く用務を話すと云ふ事があります斯くては雙方共つまらぬ譯でありますから本年からは訪問したら用事を眞先に陳べる考へであります

◎新案宿所姓名錄調製法

（新年の年賀端書利用）

內閣統計局審査官　呉　文聰

何れの家にても親族知友等の姓名錄は必ず備へ付けて置く必要があります主人が生存中は主人の記憶に存して別に姓名錄に記載してなくても事足りますが一度主人が亡くなるとか旅行するとか云ふ場合には家族は主人が外で交際して居る人の範圍を知りませんから不都合の事が起ります又丁寧に姓名錄に記載してあつても其人が主人の親友やら一時的の交際の人やら知れませんそれが爲に色々間違が出來て下女の宿許へは通知か屆いたが緊要なる親友の處には通知が屆かぬと云ふか如き事か起ります又姓名簿は轉居等があつて之を訂正加除するに手間取り十分の整理が出來兼ねますそこで自分は新案の宿所姓名錄を前々號に陳べたカルタ形記入法によりて發明し皆さんの家庭に御勸めしやうと思ひます

其方法は年賀狀に來たる端書に朱にて符號を付け□印は舊友×印は一時的知人△印は親族◎印は縣友とか云ふ風に記憶に便する爲の印を作り端書を堅三ッに折りて左の如き箱を作りてこれに入れて置くのです

ナ	タ	サ	カ	ア
ワ	ラ	ヤ	マ	ハ

硯箱位の箱を作りこれを十桁に區別し井上と云ふ姓名の人はア行の部に入れ吳と云ふ姓名のものはカ行の部に入れると云ふ風にしたらば最も輕便であつて間違のない姓名錄を作る事か出來ると思ふ此方法は只に一家の姓名錄を記入するばかりでない商家に於ける得意の姓名錄辯護士の於ける訴訟依賴人の姓名錄等を作るに最も簡便である其他此カルタ式を應用すれば店の仕入と賣拂との勘定臺帳にも用ゐる事が出來ます

◎懸賞課題　出征軍人を思ふ

風つよし霜はつめたし肌寒し路辺の夢やむすびかぬらん　北海道　西　節子（十三歲）

あら玉の年たつけさを祝ふにもまづしのばるゝますらをのうへ　富山縣　淺田　こと子

國のため君のためにとますらをがいのちをしますすゝむをゝしさ　東京　白田　はつ子

ふる雪を打見る每に忍ばるゝ寒さいかにとますらをの身を　岩手縣　祈居　準

木枯のふきすさむ夜は軍人霜をしとれに夢も結はす　大阪　富永　才子

國のためつくす誠の一筋になれぬ寒さも身には堪ふらむ　大阪　土居　芳子

ますらををを思ふ心はいかにしていひあらはさんとのはもなし　群馬　伏島　たき子

外つ國はたへぬ寒さと聞くものをいかにして夜な突きますらむ　京都　高橋　しな子

夜のふすまとりかされてもさゆる夜をあらのゝ原に露營する身は　日本橋　門井　かね子

ますらをが赤き心の血しほもて大和にしきをおりいたすらん　麹町　瓜生　保子

霜深き戰の庭に武夫か今宵はいかに夢むすぶらん　福島縣　森　やす子

ますらをの身をし思へは冬の夜の寒さをかこつ人やなからん　岡山縣　光畑　きよ子

山櫻にほひきそはむ時は來ぬほまれをあけてかへれものゝふ　北海道　四　久子

つるぎにはおそれて進むますらをもふせきかねらむ野邊の寒さは　京都　渡邊　燈子

ますらをかあたうちこらすもろこしの野邊のふゝきや心ゐしてふけ　岡山　下村　文子

國の爲め君のためにと家も身も忘れて男む心ろ雄々しき　愛知縣　石川　類子

國のため心をつくすますらをは霜さゆる夜もいれず守らん　兵庫縣　田淵　惠那子

ますらをのうえやいかにと御軍の勝鬨くたびにまつ思ふかな　小石川　大塚　里子

家も身もすてゝ仇打つますらをのこゝろや國のみたてなるらん　長崎　式守　梅子

吹風に國のたて旗なひかせてすゝむ猛夫のいさましき哉　福岡　村島　常子

編者申す　課題に應募せられたる句數百首餘に上り狹き紙面全部掲げられざるを謝す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會　一月分及二月分の評議員會の日取り左の如し

一月廿五日　（第四水曜日午後二時）
二月　八　日　（第二水曜日午後二時）
二月廿二日　（第四水曜日午後二時）

◎有功章贈與　左の諸氏には本會に對し金員寄付に付き本月十二日新年互禮會に於て總裁殿下より有功章を御親授あらせられたり

二等有功章　伯爵　戸田氏共
同　愛知　盛田久左衛門

◎支部長同顧問の囑託　秋田支部長同顧問は客年十一月下旬以來缺員の所今般岡優子氏へ同支部長を岡喜七郎氏へ同顧問を囑託せられたり

◎新年互禮會の模樣　一月十二日午後二時なり豫定の如く本會新年互禮會を本部樓上に於て開會せり當日は總裁閑院宮妃殿下名譽會員東伏宮妃殿下久邇宮妃殿下梨本宮妃殿下を始め岩倉會長近衞、毛利、大山、鍋島、谷理事九條監事、評議員黒田松平兩侯爵夫人、阿部、酒井、板垣伯爵夫人、以下凡百七十餘名出席し當日の來賓として特に招待せし東郷大將及上村中將も各々參謀副官を從へ來會せられ一同紀念の爲各宮妃殿下を始め奉り東郷上村兩將軍と共に後庭に於て撮影を爲し近衞軍樂隊の君が代の吹奏により式は始まり總裁殿下より左の令旨を賜ふ

茲に戰勝の新年を迎へて旅順陷落敵艦殲滅を聞くに至り之に加ふるに皇孫御降誕あらせられ益々皇室の御繁榮を祝し奉るの隆運に遭ひ何の悦が之に若かん

然れども時局の前途尚ほ遼遠にして既に君國の爲め戰死せる幾千百の軍人と夥しき其遺族の慘狀とを聞くに及んでは痛心斷腸の感に堪へず之を懷ひ彼を念ふ悲喜の情轉た禁ずる能はざるものあるを如何にせん

されば職員諸子よ我愛國婦人會は年の新たなると共に其事業を振興して刻下戰局の急務に應じ國運發展の動機に副はざるべからず請ふ諸子と共に之を努めん聊か所思を述べて新年の祝詞とす

之に對し岩倉會長は左の答辭を陳ぶ

今や軍國の春を迎へて茲に我が愛國婦人會の互禮會を開くに當り特に總裁殿下幷に名譽會員殿下の臺臨を辱うし且つ總裁殿下より優渥なる令旨を賜ふ久子等職員この千歳一遇の新年と共に益々勵精會務を刷新し軍人遺族及廢兵救護の實を擧て臺旨に副へ奉らんことを期すべし尚ほ當席へ敵艦全滅の偉勳を建てゝ凱旋されたる東郷、上村兩閣下の來臨せられたるは本會の光榮として感謝する所なり爰に紀念の爲め殿下始め奉り久子等會員の赤誠をあつめ結べる兩個の花束を呈すこの互禮會に當りこの光彩を添へたるは深く感激せざるを得んや茲に謹みて答辭を奉り併せて新年を祝す

會告

今般本會に於て陸海軍出征軍人慰問の微意を表する爲め繪葉書數萬枚を寄贈致度と存候就ては會員有志の方は二月十一日（紀元節）迄に百枚以上幾枚にても百枚金四拾五錢の割を以て御寄贈方御申込被下度候然る上は附錄雛形の如き類の繪葉書を作り其表面に一々寄贈者の姓名を印刷せしめ戰地に相贈り可申候也

明治三十八年一月　愛國婦人會本部

茲に於て岩倉公爵夫人は手づから花束を取つて之を兩將軍に贈りしかば東郷大將は其花束を兩手に捧げながら殿下の御前に進み出て謙讓なる態度を以て嚴肅なる句調にて左の謝辭を陳ぶ

東郷大將の謝辭

今日は本會の御招きに預り殿下始め貴婦人方の芳志を辱うしまして誠に海軍々人の無限の名譽でございます聯合艦隊一統に代りて深く謝し奉ります次に出征以前には本會總裁宮妃殿下より佐世保に於て御慰問を辱う致し誠に感激の至りに堪へませぬ聯合艦隊一統の深く感謝する所でありまして茲に篤く御禮を申し述べます次に戰時中には屢々會員御一同より御懇篤の御見舞狀を辱うし是れ又た重ねて御禮を述べます

夫れより質素なる宴會に移り互に芽出度新年を賀し東郷上村兩將軍の處には貴婦人方自から杯を捧げ兩將軍の万歳を祝し一同歡を盡して午後四時三十分頃宮妃殿下を始め各自退散せり

◎追加豫算議決　前年の追加豫算は十二月十四日の評議員會にて議決せり其要領左の如し

◎三十七年度臨時追加豫算

一金壹萬五千九拾八圓拾五錢五厘　追加總額
内
金八千六百九拾八圓五錢　徽章製作費追加
金千參百四圓參拾五錢九厘　印刷費
金四百四拾圓八拾八錢四厘　運送費
金四千參百參拾五圓五拾七錢九厘　擴張費
金百拾圓貳拾四錢　營繕費
金貳百九圓四錢參厘　第三回總會費

以上追加豫算を提出するに至りし理由の重なる原因は最初會員徽章七万個調製の豫定なりし處十二月末日迄に拾七万個の調製を要するに至りたると印刷費運送費は會員增加に伴ひ自然の增加を要せり擴張費の追加は遊說員の旅行多きと鳥居子爵布哇遊說費を支拂ふとによる

◎寄附金披露　其後本會への寄附金は左の如し

一金壹萬五千圓　大英國赤十字社
一金貳百圓　漢國京城婦人會代表　三增友子
一金百五拾圓　愛知　盛田久左衛門
一金百圓　伯爵　戸田氏共
一金五拾圓　日本橋區　笠原彌五郎
一金五拾圓　牛込區　安藤作子
一金四拾圓　横濱山手　常盤社
一金拾圓　福島縣　堀内元彦
獨貨五百五拾八馬克拾ペンニー　フラウ、プロフエッサー、フリードレンデル外十一名　在獨乙　玉井喜作取扱
此換算金貳百六拾八圓拾貳錢

以上寄附の内京城婦人會の分は同地に於て音樂會を開催し其收得金を寄贈せられたるものにして在京城の中井喜太郎氏の特に直接本會へ持參せられたるものなり

◎英國赤十字社へ謝狀

我親愛畏敬する友邦なる大英國赤十字社は本會の國家的慈善事業を贊成し遠く金壹萬五千圓を寄送せらる其仁慈友愛の高誼は豈獨り我會員の感激に止まらんや我一般國民の永く同盟大國民の信義を感謝する所なり余は本會を代表して謝意を表すると共に貴社の益々隆運を祝す

大日本愛國婦人會長公爵　岩倉久子
大英國赤十字社御中

◎會員現況　十二月末日調の會員總數貳拾六萬千三百貳拾五人にして内特別會員三萬三千貳百卅七人通常會員貳拾貳萬八千八拾八人なり尚外に贊助員貳萬四千五百拾參人なり

◎繪葉書貳拾五萬枚集る　本紙に於て右の如く會告を掲げ出征軍人に繪葉書寄贈の事を發表するや全國會員の贊同を博し毎日貳萬枚平均の申込あり遂に本紙〆切り迄に貳拾五萬の大多數の申込を得るに至りしは會員諸氏の出征軍人を思ふの情に厚きを示すものにして本紙の共に本懷とする所なり尚〆切り期限を延し會告通り紀元節迄とせしにつき有志の方は直接本會へ申込まれたし又申込のみにて費用を送られざる方は至急會告に定むる費用を送られたし

◎鐵道作業局より會員に對する特權　本會總會開催の際に來會する地方の會員に對し汽車賃金二割引の特權を與ふる旨此程鐵道作業局より通知し來れり

◎私設鐵道會社よりの特權　本會幹事以上の職員が軍人送迎及び傷病兵士慰問の爲に各停車場に臨む場合にはプラットホームへの入場は料金を要せざるの特權を鐵道作業局に於て與へ來りしが尚左の各私設鐵道會社よりも同樣特權を與へ來れり

日本鐵道、山陽鐵道、九州鐵道、甲武鐵道、總武鐵道、南海鐵道、

◎各地支部の狀況

◎熊本支部　同支部會員より熊本豫備病院の患者へ鳥打帽子六百個書翰袋二万枚足袋千八百五十足を贈與せり

◎高知支部　旅順陷落に就き乃木大將に向け祝賀狀を送れり

◎京都支部　去五日新年祝賀會を催せり中澤幹事開會の辭を陳べ大森支部長の祝辭金子幹事の答辭あり夫れより有効賞授與式を行ひ大森知事の演說あり式を畢り大田覺眠師の演說あり余興に福引ありて午後四時散會せり

◎新潟支部

◎衣服を賣つて奉公す　新潟縣刈羽郡大洲村安達まつ子と云ふ婦人は縮布商にして郡内を行商し居る者なるが曾て奥お刀自の演說を聞き大に感動し平素涙一滴だに出さぬ程意思の鞏固なる婦人なりしが其日に限り目を泣きはらして歸宅せしかば夫なる人異みて之を聞けばまつ子の云ふに今日の演說によれば軍隊が弱ければ國民一日も其堵に安ずる能はず婦人の如きも如何なる辱めを受くやも圖られず今日人々の安樂に其日を送るは　天皇陛下の御威德に依るは申すまでもなけれど一つには我軍隊の御蔭なりとの御話しを承り胸迫り涙の出づるを禁ずる能はざりしとそれより直に夫の許諾を受け本會特別會員となり毎々居郡にて兵士歡送迎等の集合には夫婦とも衆に先んじ誠を盡し居たりしとぞ然る處此度の戰爭始じまり戰死者の夥しく出づるを聞き日々憂ひ悲しみ居たりしが決心する處あり夫と相談しけるは吾々夫婦の間に子女の國につくす者もなければせめては軍人遺族の方々へ心ばかりの救護のことなりつくしたければ節約して貯へたる金に强壯なる身躰に要なき衣服を賣り拂ひ其代金を加へて愛國婦人會に寄附せんとて遂に五拾圓を調へ此程阿部新潟支部長の手を經て本會に寄附し來れり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰報

◉旅順開城會議　一月一日ステッセルは各將官を幕營に參集せしめ守備如何の問題を提出せし處諸將交ゝ兵力糧食共に缺乏せるを說くステッセル將軍劍を案し激語して云ふ「公衆何の顏ありて軍服を佩べる」と然れども大勢は既に定まれり老將軍ナテイン氏は除ろに口を開ひて曰く「然らば總ての要塞に對して日本軍に逆襲せんかこれ不能なり日本軍は一步一步新たに砲臺を奪ひ今や更に進攻せんか爲に足場を堅めつゝあり逆襲何の功かあらん万事已に休す天下何者か能く余等を救ひ得んや」と議は遂に開城に決し先任將官より順次「諾否」を問ひし處一人として否を口にするものなかりしと云ふ

◉敵將ステッセル夫人　陣中にありしステッセル夫人は夫を助け馬に跨り每夜各要塞を巡視し兵士を慰撫せしかは士卒之しか爲に勇氣を得て要塞を死守するに至りしと云ふ開城の後ステッセル將軍は捕虜となり日本に留まるの意なりしに夫人は之を諫め「夫よ御身は皇帝より預りし兵士の三分の二を失へるにあらずや宜しく祖國に歸りて彼等の兄弟に謝すべし毀譽褒貶は祖國の國論に問へ」と諫めしかば將軍も其意に隨ひたりと云ふ長崎に着して後夫人は面會を謝絕し居りしか婦人會の總代には面會したりと云ふ

◉旅順籠城婦人の狀態　長崎上陸の將校婦人には或は臨月の者あり乳呑子を懷ける者ありて其談によれば旅順に於ける住むべき家は悉く破壞せられ土人の如く穴を作り其中に住み食物及飲料には最も欠乏し只死を待つのみなりしと云ふ

◉ステッセルに對する乃木將軍の厚意　長崎縣知事に向け宣誓將校は捕虜にもあらず且つ敵人にもあらず故に名譽を完ふせしむるは我か仁義の德なりとて懇篤なる依賴狀を送り來れりと云ふ

◉陸軍中佐伊豆凡夫氏より我が發行所への書信

嚴寒の候雉硯愈々御勇健奉賀候扨々御待兼の旅順漸く攻落致し申候御滿足被下候哉否每度愛國婦人御寄贈被下誰有奉存候御一笑迄に左に

大晦日に松樹山を陷れ元旦を迎へて

あら玉の年立つけふを飾らんと　きそひてきのふきりし松の樹

俗歌

きのふみとりの松きりて　白きてんとに飾付け
赤き心ろをさゝけつゝ　けふ君か代を祝ふなり

松樹山は我師團の攻擊正面中の强堡に有之攻擊準備に八十日も費し候に若し元旦に入りては二年越となるも遺憾と三十一日に攻擊致候時の疾風迅雷的動作は定めし新聞にて御承知の事と存候目下陷落後の整理中亂筆御海恕被下度候匆々敬具

◉小池陸軍少尉より本會への書信　謹賀新年併て貴會の御隆盛を祈る小生も銃砲火の內にありて無事に加年仕候本日は元日に付てか御客より祝砲を發し住居の穴より頭を出す事出來不申候間穴の內より東天を拜し敬意を表し申候

陣中にても新年を迎ふる爲めに敵前八百メートルまで進み門松を伐採し入口に立て飾りは米のカマスを解きて作り國旗は天幕に赤毛布を縫ひ付け作り候又年末には餅米一人につき五合を給せられたれはこれにて餅を作り候元旦にて酒は內地の上酒を分配されは牛肉鳥茶碗むし等にて宴會を催し愛度新年を祝し申候

雜報

◉女子高等師範學校　同校の卒業生の團體なる櫻蔭會は此程校內にて祝捷會を開き乃木及東郷大將に感謝狀を送れり

◉東京音樂學校　同校甲種師範科に入學せしむべき生徒を募集す資格は十七歲以上の男女高等女學校卒業試驗科目は試問唱歌國語等にして官費生には六圓乃至八圓の手當を給す出願期三月三十日詳細一月四日の官報

◉女子の政治的參加運動　女子に政治上結社に加入し政治上の集會に出席するの權利を得ん事を議會に請願するよし

◉女子文學院の開始　谷子爵、鍋島侯爵、細川潤次郎氏等の首唱にて國粹保存主義の女學校を四月より開始する由なるが同校は谷子爵の命名にて女子文學院と稱し女子文學と題する機關雜誌を發刊する由

◉慈善演劇會　英、白、佛、墺、葡各國公使夫人及獨國公使館エカード夫人發起人と爲り有栖川宮、閑院宮、東伏見宮、梨本各妃殿下の御贊助以て來る二十五日、同廿七日の兩日間午後八時二十分より虎の門なる女子獎勵會に於て各公使夫人、令孃其他の貴婦人出席、素人演劇會を催す由

◉篤志看護婦人會の寄贈（昨年度の分）　赤十字社篤志看護婦人會にては此程昨三十七年度の最況並に戰時行動成蹟を發表したるが同會員より各豫備病院へ寄贈したる物品は如左

東京豫備病院各分院共　帽子四千個、書籍三千七百冊、扇子千四百廿九本、綸端書千三百卅九組、名刺入百五十個、卷紬綳帶千五百卷、寫眞及繪畫五十枚▲新橋患者休養處、卷紬綳帶五百卷、金百圓

▲同處に於て直接患者に贈與したるもの　名刺入七十六個、扇子三百三十七本、帽子一万〇三百〇五個▲廣島豫備病院　帽子三千五百個▲小倉豫備病院　帽子千個▲松本衛戍病院並臨時救護所　帽子三百二十二個

其他▲吳海軍病院に帽子百五十個▲佐世保に同三百個、卷賓一万三千本、ビスケット百罐▲仁川捕虜患者にビスケット百罐▲本社救護員に卷賓十万五千本、手巾三百三十九打を寄せ別に赤十字社病院へ患者用綳帶材料として木綿百反を贈れり

◉閉塞隊生存者歸る　閉塞隊の男士にして開城後歸國せし者は僅かに拾數人に過ぎず將校は一人も生存せざりし

◉米國博覽會日本賣店の燒失　閉會後燒失せし處之を機會に米國の巡査まで物品を盜み取りしと云ふ

◉火藥庫爆發　門司にある大倉組の火藥庫爆發し死傷者を出せり

◉歌御會始め　常宮周宮兩內親王殿下には本年より始めて詠進あらせらる本年集まりし詠歌進は昨年に比し三千許り小く多きは愛知縣の千百三十二枚大日本歌道獎勵會の千五百二十八枚にして戰地よりも詠進し來りしもの多かりしと云ふ

◉大山大將夫人の美擧　大山夫人は此程其所有に係る栃木縣那須別邸の立木を切り倒して殘らず木炭となし之を本邸所在の千駄ヶ谷村出征軍人百十戶へ各二俵宛を分配せられたり

廣告

大日本女學會編纂

家政百箇條

去十二月廿五日發行
正價金拾五錢
全國無遞送料
（郵券代用不苦）

本書は我が大日本女學會に於て女學講義を始め多年諸種の女子讀物を編輯するに當り諸名家の講義設話中より家政の法則となるべき事どもをそれより摘記せし漸く積りて百箇條三百六十七項となりたれば纏めて一冊となし家政百箇條となづけて發行したるなり書中に收むる所料理の鹽梅漬物の加減裁縫の寸法割合洗濯汚點拔の方法衛生敎育禮法の定則より家庭に關する諸法令に至るまで日常必要の規則一わたりは網羅し得たりと信ず本書發行の趣意は戰國の際に能く家事の法則を心得て家內に無駄を生ぜしめず以て堅忍持久の覺悟を十分ならしめんとの微衷に出づされば其價を低廉にして專ら普及に力む幸に微衷を諒し本書を以て座右の友とせられん事を切に家庭の主婦達に望む也

東京市麴町區下二番町三七　大日本女學會事務所　電話番町千三百三十番

木村鷹太郎君譯

バイロン作　**海賊**

!!!女性及び家庭の高潔なる讀物

表裝挿畫　和田英作氏　優美斬新美術的表裝

定價金六十五錢　郵稅金八錢

金波燦たる仙境の如き地中海。こゝに尊大不屈大磐石の意志ある哲學者的古武士の如き海賊主人公を現し之れに配合するに從順貞婉なる「百合の花」「石榴の花」の如き天女に似たる兩美人を以てしこれに交ゆるに劍戰火焰戀愛復讎等を以てすと雖も其全篇や實に雄大高潔なる道義の發現なり。本書を讀みて必ず其男子も女子も男性美女性美景色美に由り無限の感に打たるべく殊に海賊主人公の貞操を守るの嚴なる、其妻が貞婉從順にして一意夫の身の上を思ひその家庭の琴瑟の和樂ある又敵將の愛妾の海賊を助くるの情、海賊の彼女に對するの情の如き實に優美高潔なる女子及家庭の讀物として純潔高尚優美なるものとす乞ふ陸續愛讀あらん事を

東京神田錦町一ノ十　電話本局二一八二番　●尙友館發行●

東京市日本橋區通一丁目
合名會社　**森村銀行**
電話(特)本局六七三番

定期預金　六ヶ月以上　年五分三厘
當座預金　百圓に付日步　八厘
特別當座預金　同　日步　壹錢壹厘

最新式
ホワイト裁縫ミシン
神戶市加納町四丁目十五番地　Ⓜ古屋商店
橫濱市元濱町一丁目五番地　Ⓜ古屋商店

編輯主任下田次郎氏
女子敎育
第二卷第一號　定價拾五錢
我國婦人雜誌中最も程度高く敎育ある婦人の必讀すべき唯一の雜誌なり
發行所　東京市神田區錦町一丁目十番地　明治書院

登録商標　高木
官許　懷中要藥　**清心丹**（せいしんたん）
本舖　東京元大坂町八番地　高木與兵衛
本劑は近頃同名又は類似の藥各地に夥多相見え候に付人魚の商標と高木の名稱篤と御認の上御求めあらんとを乞ふ

御半ゑり帶揚るい
新發明御德用向
都縮緬友仙新形半ゑり
（金拾錢五厘より拾貳錢五厘迄は進物用に最も適當の品なり）
神田區裏神保町九番地まないたばし通り
京都萬屋支店

西洋食料品
並に洋菓子化粧品
亞米利加屋　**村上堅吉**
神田區今川小路二丁目四番地

◎牛肉鷄肉◎
西洋料理
精選美味他ニ非類御例シヲ乞フ入浴御隨意
本店　京橋區八丁堀仲町三角　早川亭
同店　日本橋區通り貳丁目式部小路　早川牛肉店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○本會の發起せる軍人寄贈袋は各位が軍人に對する同情と誠意とに因り（袋數八萬二千七百二十九個人員四萬六千八百六十六人）の多數に達し第一師團及び恤兵部へ送達を了したり右御報告旁各位の御贊同を感謝す

明治卅八年一月

日本橋婦人會

品質純良
意匠嶄新
染色注意

御注文に應じ候
遠近に不拘迅速
見本を供し可申候

神田區表神保町（小川町通り）
伊沢呉服店
電話本局二三一七

貴婦人令嬢向 ○千代田草履 弐円以上

貴婦人令嬢向 ○東草履 壱円五十銭以上

意氣向 ○江戸子草履 壱円三十銭以上

婦人向 ○新形雨傘いろいろ

其他花手輕品も沢山陳列致置候尚美術塗台表附新形花履物澤山取揃へ有之候市内は御一報次第店員伺候御遠方は引替小包にて御送附可申上候

登録商標 香

浅草區茅町貳丁目
香取屋藤吉
電話下谷千百九十二番

西川商舖牛豚肉販賣 謹告

品質佳良無比類　價廉我店所最勉
配達迅速而正確　夏季殊勉其防腐
普通配達日三回　市内何處不厭遠
若有臨時急用事　走自轉車而直辨
地方配達有便法　特勉西洋料理用
請試購而評其味

價格左ニ

牛肉百匁	
ヒレー	円50
ロース	45
ラン	38
ステキ	38
イチホン	38
ヒキ肉	30
ブリスケ	22
ハラスープ	16
スネスープ	20
尾	15
ケンネン	05
舌	42
ケンネン油	14
ヘット	16
豚肉百匁	
上等	20
並等	18
チヤブ	14
ヒキ肉	16
油	16

恭賀新年

小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店

本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 西川支店

日本橋ふきや町電話浪花千二百七十番

戰捷紀念模様半ゑり

小賣部　玉永井支店

神田區南神保町二番地

勅題模様 半ゑり帯揚

嶄新季節模様 魁案出柄取揃

特別織物税を奉公し賣價は渾て従前の通

○○旅順占領ひも ○日本じめ ○戰捷ネキタイ ○帛紗
○愛國婦人襟巻 ○男襟巻 ○肩掛 ○頭巾地 ○襦袢袖
○高等洗粉 顔肌美白 チエリー 香料バイオレット麝香入

本店 新橋竹川町十二番地 電話新二〇二七 ゑり治

支店 神田表神保町壹番地 電話本局九五二 ゑり治

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店
電話浪花二八五九番

小賣部

本郷區本郷五丁目
美濃磯本郷支店
電話下谷二四一五番

淺草區諏訪町
美濃磯淺草支店

日本橋區佐内町
美濃磯佐内町支店

深川高はし際
美濃磯支店

芝區新櫻田町
小田商店

牛込區神樂町一丁目
伊澤商店

四谷區傳馬町一丁目
伊澤支店

醫院案内

院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保徳太郎
每日午前診察
每日夕刻診察

婦人科産科榊病院

東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

看護婦の需に應ず

東京看護婦協會

神田區錦町參、貳、（電本三三一四）

東京市麹町區隼町二十八番地

ドクトル 川瀬元九郎

内科一般
内科的小兒病
身體檢査幷に運動療法

診察午前中（電話番町八二二番）

小兒病診療

醫學士 内田愼太郎

浅草區福井町貳番地
宅診午前 往診午後
電話下谷七一八番

耳鼻咽喉科院

院長 ドクトル 山上兼輔

診療每日午前

四谷區本村町三十七番地
電話番町七三〇（士官學校前）

院長 醫學士 鳥山南壽次郎

鳥山内科院

午前診察 午後往診

京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

神田區今川町三番地（電話本局三〇一九）

内科病特に腦脊髓神經疾患

峰内科醫院

院長 ドクトル 峰秀世

るゐれき切らずになをす
○心臓病（殊ニ瓣膜病）
○脚氣（轉地不必要）

神田區三崎町三ノ一 西通リ廿五

（診察午前）千葉内科院

◉◉婦人科小兒科 専門

午前宅診 午後往診

東京市麹町區飯田町四丁目九

女醫鷲山彌生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

油染垢でも採ずに脱る奇代の原料

世界無比 新發明 英國製ワッセル

◎此ワッセルは湯一升に二匁(小盃へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡貳時間浸し揉まずに置き後水にて洗へば自然に脱ます白地の着物シャツ足袋等には石鹼より數倍の効用があります

◎婦人の髪は一匁五分(小盃へ半分位)を一升餘の湯に溶解して洗へば玉子と同樣の効用があります脂肪多き身躰に常に使用すれば皮膚を密にします尤も水虫糸か せ手のあれる事は決してありません

◎食器臺所道具は勿論戸棚板の間の拭掃除にも有効です絹木綿毛織物を晒すに至極妙です又硬水を軟水にする特効があります蒸汽管の鑵石も奇妙に除去ます

芳香ワッセル

◎此ワッセルは香料其他衛生に適する各種の原料とを加味せしものなれば朝夕御用ひの方に香氣馥郁として色を白くし總て皮膚の患にかゝるとなし又おしろい下を用ひずして御化粧の出來る事妙なり

ワッセル水　ワッセル石鹼

◎此品も芳香ワッセル同樣の有効品であります論より證據一度御用ひあれば其効能はすぐ知れます

英國製ワッセル日本一手販賣元　御肌あらい芳香ワッセル製造元　東京京橋區卅間堀三丁目河岸　三友商會　(電話新橋千七百十二番)

費用と手數を省き無害有効の洗淨品

登錄商標

(第五回博覽會褒賞受領)

東京市京橋區銀座三丁目　(八)松澤商店

賣捌諸々小間物店賣藥店に特約あり

無毒　クイーン白粉

艶美　クイーン水

東京　花陽堂

◎空氣暖爐

◎本器に一度火を投入せば更に手數を要せず十五時間以內同樣の温度を保つ故客室事務室は勿論寢室又は病室に用ひ至極妙にして永く室內に置くも火氣にのぼせる憂更になし

製造發賣元

は少量の炭火を以て　空氣の作用に依り强烈なる温熱を發する　世界唯一の暖爐なり

特製一個金六圓二十錢

並製一個金五圓四十錢

荷造費箱代一個金四十錢申受候

◎東京大阪京都横濱は本支店出張所へ電話又ははがきにて御報次第持參可仕候

◎本器實物寫眞入說明書は御報次第送呈す

東京市淺草區諏訪町一番地 (特電話下谷八百三十一番)　小原商店本店

大阪市南區安堂寺御堂筋北入 (特電話東四百六十二番)　小原商店支店

横濱市福富町一丁目五番地　小原商店横濱出張所

京都市四條東通洞院東入 衣川方　小原商店京都出張所

家庭の新風味

堺枯川著○洋裝美本金壹圓郵稅拾錢

都新聞評　和樂春のごとき家庭を作り得ば此書當に幾萬金に値ひせん

大阪朝日新聞評　いづれも有益なる文字にあらざるはなし妻たり娘たるもの親たり夫たるもの皆讀むべし

東京朝日新聞評　最も通俗に最も平易に最も多趣味に書かれたり男女共に一讀せば必ず大に得る所あらん

報知新聞評　世間幾多の家庭書類ありと雖も此書の右に出づるものなし

東京本郷區西片町十　內外出版協會

登錄商標　水晶おろん

薔薇麝香入　無毒薄化粧

東京通塩町　大和屋　發賣

大瓶金貳拾五錢　小瓶金拾貳錢

半襟　新柄陳列

西京友ぜん縫取勅題新年の山模樣半ゑり 帶あげ帶止め袋物縮緬財布小兒巾着頭巾涎掛

東京神田區表神保町一番地　赤のまん襟店　電話本局二千八百五十三番

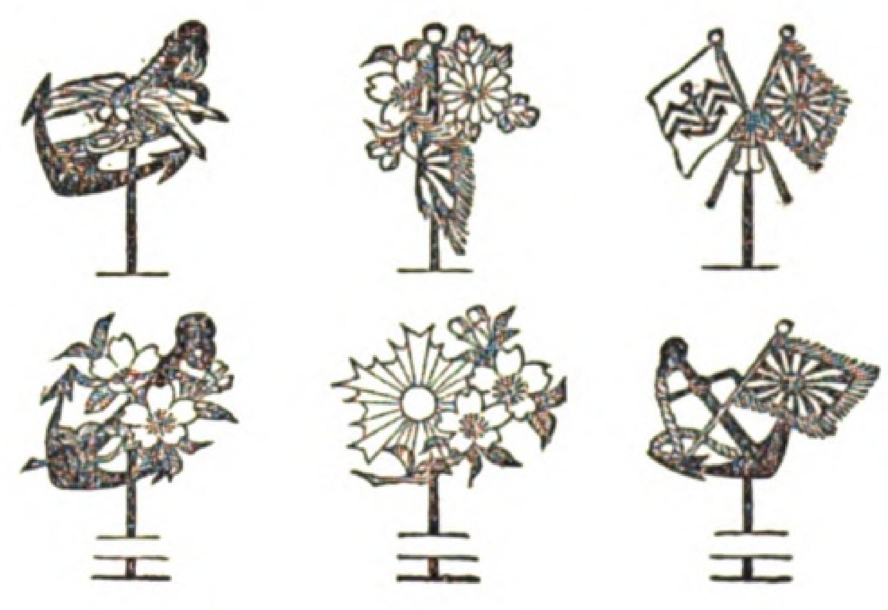
登錄商標

高等御化粧并ニ高等御洗髪兩用但シ洗髪ニハ微温湯ヲ好トス

いろは洗粉

製造本舖　いろは洗粉一　いろは香一　日本橋區龜島町一ノ七〇　飯田旭堂

戰勝紀念ピン



金銀の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちは各その胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價　純銀製一個金三十五錢以上　餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋裝に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達　東京市下谷區池の端仲町　玉寶堂　電話下谷特九六五番 一二四四番

來て此千古の壯觀空前の珍品を見よ

旅順陥落寫眞帖

寫眞畫帖第七編　一月十日發行　正價廿錢　郵稅貳錢　切手代用一割增

旅順の攻圍は實に千古の壯觀を極め戰鬪の奇絕を盡す眞に古今無類其凄き險塞岩壘其猛怪の巨砲其驚天動地の爆發突擊格鬪に空前絕後於此乎我社は非常なる勞費を以て其奇怪絕壯絕凄絕なる寫眞を集めて本帖を發行す見よ本帖の大特色を!!!……

奇絕眞寫版四十餘枚

▲大本營秘藏旅順攻圍大寫眞▽は本帖に依て始て天下に現はる砲臺爆裂巨砲猛……

▲射坑道堀鑿敵壘占領山上突擊等の大壯觀は本帖の外に見るべからざる千古の珍品……

▲攻城司令部藏版大寫眞▽是亦本帖の大特色海軍重砲酣戰陸戰隊

▲活動敵艦攻擊火藥庫等も穴藏の背面の攻擊實地に見る如し實に本帖獨特の珍品天下唯此一帖あるのみ

▲本社特派員寫眞▽中に松村師團長も我坑道の激稱ありし決死撮影

▲乃木大將筆蹟

▲本社特約伊國武官ダダ撮影珍品種々

◎眞に空前無双大紀念帖

東京麴町區有樂町三丁目　實業之日本社　(電話本局五百十四)　賣捌各地書店

めりんすゆうぜん

人形町通住吉町　赤のまん　おざるや

登錄商標　金線草袋

◎定價一磅入(約九十日分)金三圓、遞送費二十錢　▲半磅入金一圓五十錢遞送費十五錢

金線草私言發見と其効能并に醫士の報告患者の實驗等は本書に詳か也(定價郵稅共十二錢)

◎るいれき其他結核性の療法は本藥服用に限る

製藥本舖　東京神田區鍛冶町三〇　東光堂

特約　日本橋區本石町 電話本局五八八　熱田彦兵衛

販賣　同室町三丁目 特電本局一三〇　島武商店

外各地藥店取次販賣す

特約販賣店　◎東京堂 神田區表神保町三番地　◎東海堂 京橋區銀座四丁目

明治三十八年一月廿日發行(毎月五日二十日二回)

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會内

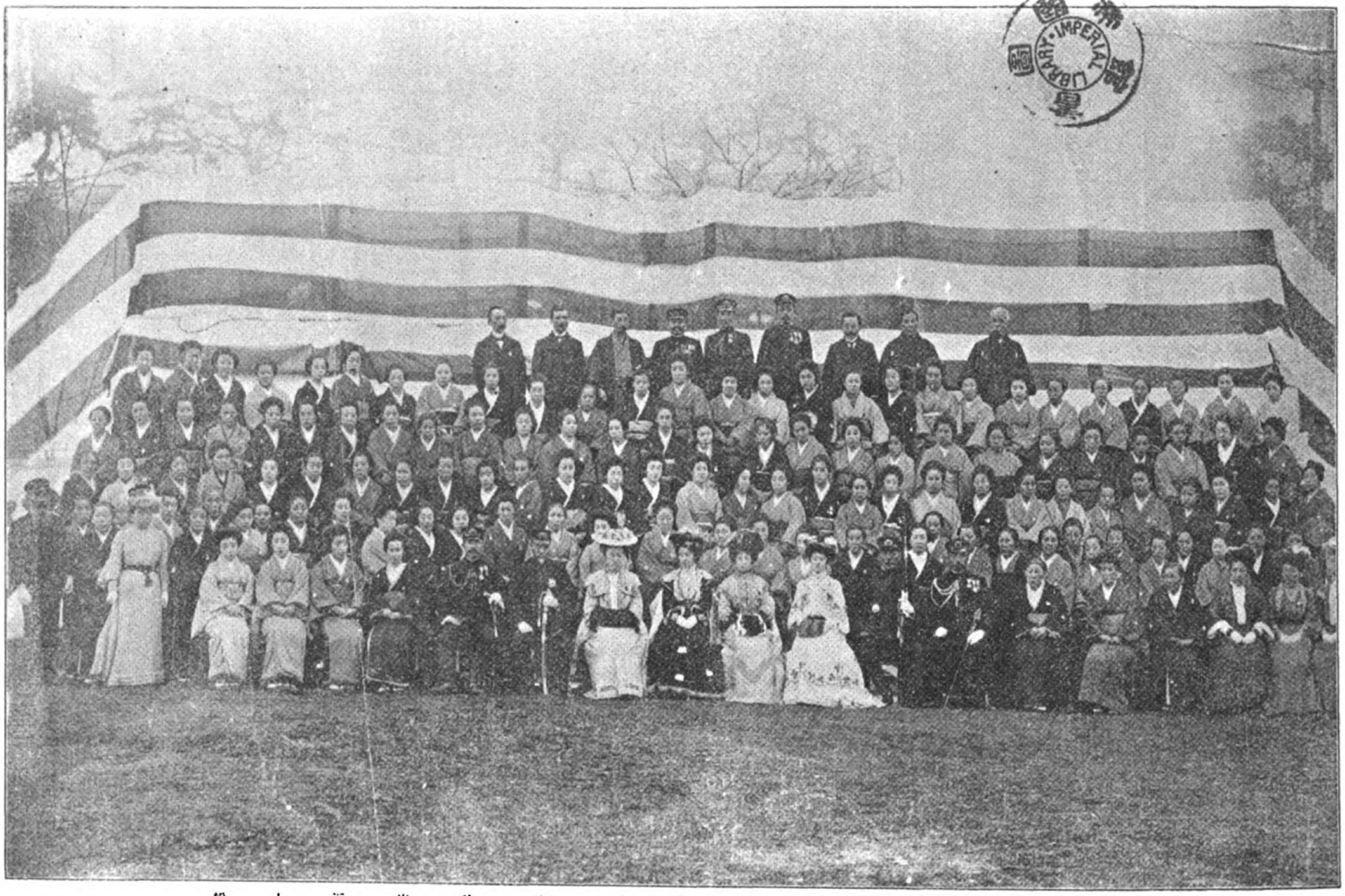
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第七十號附錄

愛國婦人會新年互禮會寫眞

明治三十八年一月廿日發行（毎月五日廿日二回）
明治三十五年三月廿七日（第三種郵便物認可）



IMPERIAL LIBRARY 帝國圖書館

（前列）
谷子爵夫人　大山侯爵夫人　毛利侯爵母堂　船越副官　上村海軍中將　梨本宮妃殿下　閑院宮妃殿下　東伏見宮妃殿下　久邇宮妃殿下　東鄉海軍大將　秋山副官　岩倉公爵夫人　近衛公爵母堂　九條公爵夫人　松平侯爵夫人

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN